

申18号2020年度郡山総合車両センター業務計画に関する申し入れ団体交渉

第1項：「ミライのS&E構創」施策において郡山総合車両センターの将来像が示されているが、施策スケジュールの全体像を明らかにすること。

回答：スケジュールについては現在検討中である。

(会) 東北地区の車両のメンテナンスということで車両の面倒を見るということは変わらないが、**入場は今のところ入場レスで修繕できないかということ**で検討しており、本当に入場レスが良いのか今のように入場させてやった方が良いのか、検証を行っている最中。

(組) 定期検査だが、機器の脱着作業は本体社員がやるということで良いのか。

(会) **グループ社員がやる**。どこでやれば良いのか、今後検討していかなければならない。

(組) 概ね何年頃に今言ったことが順応するのか。

(会) **概ね10年で基礎を作っていく**となっているので、その以降になるかと考えている。

(組) 入場レスに伴って、要員の大幅削減というのもあり得るのか。

(会) その間の仕事がなくなる訳なので、それは**減少になっていくのか**と思う。

第2項：2020年度の事業計画において、1項の施策に関わるものがあるのかを明らかにすること。

回答：2020年度の計画については、箇所において周知していくこととなる。

(組) 順次進めるものについて、実際社員の意見は反映させて頂きたい。

(会) **当然意見を反映して必要な設備は入れるような方向で検討している**。

(組) CBMの分析チームというのは幹総に行くという話なのか。

(会) 東総セが取り組んでいるので、そちらの方に行って勉強する。

第3項：郡山総合車両センターの業務量の増加により、提案数以上の要員増の必要性がある場合には、現場の声に基づき、要員を確保すること。

回答：必要な要員は確保しているところである。

(組) 計画課の業務量が増えることが懸念されていて、現場の技術継承が難しいのではないかとと思うが、会社としては問題なく確保しているという考えか。

(会) OJTとか活用しながら技術継承しているし、それに**見合う要員は確保している**。

第4項：技術継承や教育に関しては、関連会社任せにすることなく仙台支社においても責任を持って行うこと。

回答：グループ会社一体となって取り組んでいるところである。

(組) 委託会社に全て任せではなくて、本体と一緒に意見交換をしながらやっているのか。

(会) 問題点や不具合点について**意見交換して、改善できるものについては改善したりしながら進めている**。

(組) JR本体とグループ会社の品質会議や工程会議等実施しているものはあるのか。

(会) **工程の進捗状況の共有化**を図ったり、監督課の方で打ち合わせをやってやっている。

第6項：会津若松地区における派検修対応の迅速化のため、保全科の体制強化を図ること。

回答：必要な対応は実施しているところである。

(組) 現時点での成果と課題は何か。

(会) 修繕に手間取ったこともあるが、連絡体制も図れるようになってきているし、**車両不具合が出た際には速やかにデータがもらえるようになって良くなってきている部分もある**。

(組) 若松のJ-TECはGV叩けるということで良いか。

(会) J-TECで叩ける指導はしている。基本的には新津が叩く。